



梅花新聞【香里】
第44号

題字 管長 江川辰三 禅師
発行者 鬼生田 俊英
発行所 曹洞宗事務庁
企画編集 伝道部詠道課

和合和睦

曹洞宗管長
大本山總持寺貫首 江川辰三

令和二年(二〇二〇)の新春を謹んでお祝い申し上げ、ここに梅花講講員の皆様のご多幸を祈念いたします。

旧年中、宗門各方面にお寄せいただいたご支援ご尽力に、心より感謝の意を表します。本年も変わらぬお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

太祖瑩山禅師様は、『伝光録』第十四祖章の中で、「人は自分一人で修行するのではなく、皆集まって修行しなければならぬ」と説教されました。その理由は、自分一人だけで行っていると、物事はすべて共に助け合い、支え合って成り立っているという真実のありように気づかず、いたずらに自分だけが正しいと執着してしまうからであると説かれています。



そしてこの大切な誠めは、高祖道元禅師様、永平二祖懷奘禅師様がしっかりと護って来られた教えであると示されました。

詠道へのこころざしを共にする講員の皆様が、お互いに仲良く調和してお唱えするお姿は、その大きな力で人々の身魂に訴え、法悦に導きます。お一人おひとり、和合和睦のこころを持ち、共に詠道という一行に余念をはさまず、徹することにより、そこに在る方々は、自然と深い感動を享受します。道場全体の一体感は、あまねく自他を利することが現成していることの証といえます。社会混迷、人心不安の懸念がますます深まる現代ですが、梅花の法輪がいつしか大きな輪となり、「お誓い」にある「明るい世の中をつくる」ことに連なっていくことを、何よりも念願する次第であります。

年頭にあたり、皆様のご健勝と更なるご精進を切に祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

お誓い

私達は梅花流詠讚歌を通して、正しい信仰に生きます。
私達は梅花流詠讚歌を通して、仲よい生活をいたします。
私達は梅花流詠讚歌を通して、明るい世の中をつくりまします。

北の大地での再会を楽しみに

北海道開催にあたり歓迎のご挨拶

北海道管区長
岩井淳一

昨年五月に熊本にて盛会に終えた「梅花流全国奉詠大会」の閉会の際に発表されましたが、令和二年度は五月二十七、二十八日に北海道札幌市で開催される事となりました。北海道での開催は平成十八年以来十四年ぶりとなります。会場は昭和四十七年に札幌オリンピックに於いてフィギュアスケート競技等が行われた真駒内アイスアリーナ。憶えている方も多いため存じますが、アメリカのジャネットリン選手が転倒しながらも見事にメダルを獲得したあの会場です。さて、近年毎年襲ってくる自然災害。北海道も平成三十年九月に起きた胆振東部地震と前日の台風により大きな被害をうけました。「ブラックアウト」という言葉が連日報道され、自然の怖ろしさと現代の生活環境の脆さを痛烈に感じました。同じように全国各地で大きな被害をうけている現状に、「こういう時こそ共に寄り添い、詠道の心で全国に元気を与えたい」と

いう思いを強く感じます。ジャネットリン選手があんな愛くるしい笑顔で世界の人々に元気を与えた如く、同じこの会場から被災され大変な思いをされている皆様に元気を発信出来ましたら、梅花流のお誓いにもあります「明るい世の中をつくりまします」に通じる素晴らしい大会になるのではないかと思っております。

自然の恵みと共に皆様方を精一杯お迎え致したく準備しておりますので、大勢の皆様のご来道をお待ちしております。

出演者のご紹介



清興出演者は、
鷺崎香雲さん。
(元演歌歌手・香田晋)
平成30年11月に得度し、
曹洞宗の僧侶となる。

全国大会では、香雲さんの愛されるキャラクターと力強い歌声で盛り上がること必至。お楽しみに!!

両大本山で一泊講習会

令和元年度梅花流宗務庁
主催檀信徒講習会

大本山永平寺に28名が参集し7月11日、檀信徒講習会が開催された。開講式の導師をお務めいただいた熊谷忠興後堂に心温まる歓迎のごあいさつを頂き開講。森山祐光、岡本大英、福原利行、尾田正明の各師範を講師に、2日間に亘り集中した講習が行われた。特別講習では、浅山賢正伝道教化主任が自身の梅花流との出会いなどを交えて、詠道を通じた信仰の大切さをお話しされた。



道元禅師に報恩の献詠 (大本山永平寺)

2日目は、3時45分に起床し法堂での朝課に参加。朝課後には特別にご配慮をいただき、仏殿にて「正法御和讃」を、承陽殿前にて「高祖承陽大師道元禅師讚仰御和讃」を献詠した。貴重な経験に、参加者は精一杯のお唱えをして信心を顕した。少人数ゆえに、個別に指導を受ける時間がたっぷりとあり、とても満足した様子が見られた。



全体講習の様子 (大本山總持寺)

た様子が伺えた。最後に武内宏道吉祥閣副監院を導師に閉講式を行い、清々しく講習会が締めくくられた。一方、大本山總持寺では11月18日、109名が参集して開催された。開講式の導師は中井隆吾副監院。良い研鑽ができますようにと励ましのお言葉を頂いた。鈴木恵道、浅田高明、加納明義、宮澤匡俊の各師範が講師を務め、充実した講習が行われた。特別講習では、蔵重宏昭出版室長に御法話をいただき、調和・和合の大切さを学んだ。

2日目は3時45分に起床し暁天坐禅、大祖堂での朝課に参加。午後2時までの講習の後、閉講式を行い修了した。大本山永平寺では深山幽谷の環境のなか、濃密で荘厳な講習会となった。大本山總持寺では「海の玄関・横浜」に近いために集い易く、大人数の受講で活気ある華やかな講習会となった。それぞれ特色はあれども、梅花流にとことん打ち込み研鑽を深める機会となった。普段と異なる環境で学ぶことで新しい感慨を生み、奉詠に込める思いにも変化が生まれる。来年度も多くの講員が参加されることを願う。

海外特派巡回が再開!

2年間休止していた海外での梅花流特派講習が再開した。6月に北米、11月にハワイを巡回。現地では梅花流を学ぶ方々から大いに歓迎され喜ばれた。左は、5月27日〜6月4日にかけて南米を巡回した丸田祥寛特派師範からのお便り。

冠省 この度、南アメリカ国際布教総監部管内の梅花流特派巡回におきましては、総監部、檀信徒講員、護持会、婦人部、世話人の皆様より御法愛、御教導を賜りありがとうございます。深く感謝申し上げます。

全行程は移動も含めて二週間。緊張と不安の中、成田空港からアメリカのカゴを経由し、ブラジルのサンパウロまで約二十五時間。到着すると皆様に温かくお迎え頂き、特派巡回の再開を何より喜ばれました。次の日より、モジダスクールゼス禅源寺、イタペチニンガ市日本語学校、サンパウロ別院佛心寺、ローランジャ佛心寺、パソソフンド慈水禅堂、ペルー慈恩寺の六教場を巡回しました。



講習では、ここが南米だと忘れてしまいう程、歌声と笑顔に包まれ、お唱え作法所作に至るまで真剣に取り組む、そのお姿に私自身も導かれました。そして地球には裏も表もない事を教わり、別れ際には握手



やハグと共に「また、お会いしましょう」とのお言葉。不安を抱き、隔たりを感じていたのは私の方だったと気づかされました。遠く海を越え、言葉や生活は違えども、願い、祈り、信仰の姿は勿論「生きる」姿は何も変わらない。梅花流を通じて心は一つ。更なる研鑽をお誓いし、再会を願うものとなりました。合掌

功德のグルメ



とろとろでアツアツ!!
ねばりはしないが濃厚!!
山形や秋田の納豆汁は、納豆をよくすり潰すのが特徴。庄内地方では大黒様のお歳夜(12月9日)に欠かせない。これはうまいぞ!! 体の芯から温まる栄養満点の一碗だ。

芋茎などの定番の具材はあるが、お好みでOK! 少し濃いめのお味噌汁に加えるだけ。ぜひご賞味あれ。願わくは此の功德を以って…ごちそうさまでした。

第18回 スマイルアゲイン 心ひとつに被災地へ祈り

自然災害の被災地支援を掲げ「歌声で捧げよう祈り届けようまごころ」をテーマに有志が開催している「スマイルアゲイン梅花のつどい」が10月28日、島根県出雲市の神光寺しんこうじを会場に開催された。

すつきりとした秋晴れの出雲大社正門前は、平日にも関わらず神在祭を前に多くの観光客で賑わっていた。その通りから少し入ったところに肅然と佇む神光寺。建立からおおよそ250年という歴史ある本堂に、島根県内から梅花講員120名余りが集った。

9時30分から昼食を挟んだ15時までの講習で「四摂法御和讃」など数曲を練習。大きな笑い声が何度も起こる楽しい時間のなかで、詠唱もしつかりと習得した様子が伺えた。講習後には、練習した曲を中心に奉詠と読経で法要を営み、被災地の復興を祈願し被災物故者に回向した。

松江市の龍雲寺梅花講から参加した方々は「楽しくて楽しくてあつという

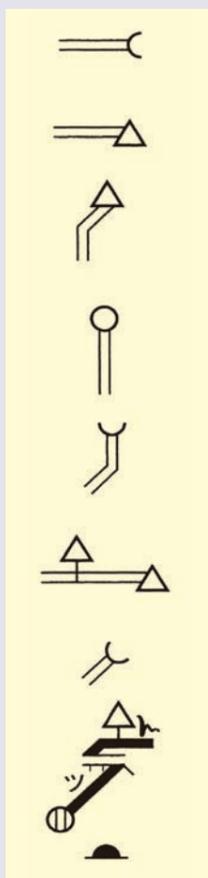
間でした。大好きな梅花流で被災地を支援できるのが良いですね。」と話してくれた。台風19号が各地に大きな被害



楽しく指導する北野良昭正伝師範

ばい
い
か
く
い
ず

さて、この曲は何でしょう？



笑顔で被災地にエール。「がんばってー！」

が発生させた直後の開催ということで、被災地を応援したいという思いと、犠牲となられた方への供養の念が強く込められた奉詠が清らかであった。

閉会にあたり、この度の参加協力費から昼食代を差し引いた金額他合計32万5千9百円が、北野良昭代表より神光寺住職の渡部卓史曹洞宗教学部長にその場で託された。これにより、道心利行のスマイルアゲイン梅花のつどいより曹洞宗義援金に寄託された累計は850万円を超えた。尊い浄財は、被災地復興支援に役立てられている。

今回は、令和2年3月31日に北野代表が住職を務める滋賀県高島市の正傳寺で開催される。

被災地 だより



梅花流特派師範
新潟県村上市 瑞雲寺
住職 小池泰元

令和元年六月十八日二十二時二十二分、新潟県村上市と山形県内で震度六以上の激震を観測しました。

当時、私は特派師範として福島県を巡回中でした。関係各位の皆様は温かいご配慮のおかげで、翌日の夜には帰山することが出来ました。幸い家族はケガもなく無事でした。しかし、本堂では様々な物が落ち、位牌堂は約三分の一の位牌が落下し無残な堂内と化していました。

地震後、早朝より駆けつけて下さった檀家役員方々の懸命なるお力添えがあり、破損したお位牌を別棚に安置するなど、早急に対処して下さいました。片付いた位牌堂を見て少し安堵しましたが、築二百年近くになる伽藍全体に傾きや多くの柱のひび割れが確認され、余震や大雪になると安全とは言い切れないと『半壊状態』と診断を受けました。

困惑と動揺で右往左往する中で、檀信徒の皆様協力や関係各位の温かい励ましを糧に前進する気力が湧き、ただただ感謝致しております。そして檀信徒の皆様や家族に大きな被害がなかったのが何よりのことと安堵しております。これからは、まず本堂部分の復旧の為に、古い土台の改築・傾きの改善・耐震対策を檀信徒の皆様と共に励んで行きたいと強く思っています。

近年、自然災害により多くの方々被災しております。お見舞い申し上げますと共に、皆々様の早期復興を御祈念申し上げます。

合掌



うめちゃん

はい！
どこでしよう？

クシナガラ
お祈りさまが入
された聖地

インドです

クシナガラ
お祈りさまが入
された聖地

